



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第224号 2020年11月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和2年10月30日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

「禍を転じて福と為す」 ～中島正二さん～

「よこすか文学館」を担当していただいている洗足学園中学
高校教諭中島正二氏に、「須佐之男命（スサノオノミコト）と
コロナ」についてお話しを伺いました。



『古事記』には、スサノオノミコトが八岐大蛇（ヤマタノオロチ）を退治する
話があります。その発端は次の通り。

乱暴者のスサノオは高天原を追放されて出雲国に降臨しました。そこの川に箸
が流れてきたのを見て、スサノオは上流に人が住んでいると思い、そこを訪ねて
いき、老夫婦と少女が泣いているのを目にします。彼がそのわけを尋ねると…。

ここで注目したいのは、この神話の世界ですすでに箸の文化が存在したと描かれ
ている点です。我が国は悠久の昔より箸の文化の国でした。

新型コロナウイルスによる死者の数が、日本は欧米諸国に比べると格段に少な
い点に関して、文化的ファクターがあげられることがあります。免疫力を高めると
言われる納豆、みそ、しょうゆ、漬物などの和食の発酵食品もそうですが、手
でパンを取って食べる欧米の食文化とは異なる、スサノオの時代
から延々と続く箸の食文化もファクターといえるでしょう。



今に生きる私たちは、力を合わせてコロナの災禍を乗り越えよ
うとしていますが、実は日本の伝統を作ってくれた先祖たちも、私たちの力と
なってくれています。

（洗足学園中学高校教諭 中島正二）

昭和33年から新築工事やリフォーム工事、住宅設備のメンテナンスを担当させ
ていただいているお住まいをご紹介します。

今回は経年劣化や台風で被害を受けた屋根、庇などを補修して外壁を塗装する
外装のメンテナンスです。特に軒裏の痛みは激しく、一部張替えて外装を仕上げ
ました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

「台風への準備ができました」という感想をいただきました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォアー、アフター、さ
らにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. Next100
創刊 2002.4.1.

よこすか文学館

<59>

横須賀が登場する文芸や
横須賀にゆかりのある文
学者を紹介します。

大島昌弘

『海の隼 参謀・三浦按針
(ウイリアム・アダムス)』
(学陽書房)

慶長5年(1600)豊後国
に漂着し、徳川家康に重
用され、西洋学術の指導
者、外交顧問として仕
え、元和6年(1620)に
平戸で死んだ三浦按針こ
とウイリアム・アダムス
の日本滞在20年を描い
た小説です。著者にとっ
ては『北の海鳴り 小説中
島三郎助』『罪なくして
斬らる 小栗上野介』と併
せて横須賀三部作となる
作品。家康との関係が見
どころの一つで、家康の
死後、按針が「無理難題
を吹きかけられるたびに
能力の限界に挑み、成長
させてくれたのだといえ
なくもない。また、互い
に利用し合ってきたとの
見方もできるだろう。」(311頁)と回想するのが
実に印象的です。ちなみ
に、按針を称える「三浦
按針祭観桜会」が毎年開
かれています。



洗足学園中学高校教諭
中島正二

横須賀製鉄所物語（咸臨丸の帰国①） <70>

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

咸臨丸に乗船しアメリカに向かった木村摂津守一行は、正使一行よりも先にサンフランシスコに到着し、万延元年（1860年）3月8日に遣米使節団正使一行を乗せたアメリカの軍艦ポーハタン号を迎えることになりました。

咸臨丸は往路の太平洋で時化に遭い、船に重大な被害を受けました。咸臨丸の購入に当たっては新造船との売り込みでしたが、外装部分を外すと古材も多く使用されていて、帰国するには大規模な修理をしなければならない状況が判明し、サンフランシスコの海軍造船所に回航され修理することになりました。その後、正使を乗せた軍艦ポーハタン号も海軍造船所に着岸したので、咸臨丸に乗船した木村摂津守、勝麟太郎、佐々倉桐太郎、ジョン万次郎、ブルック大尉など主だったメンバーがポーハタン号を訪れ、お互いに無事到着したことを祝い、また、時化の中の航海で辛苦しった思いなどを時の経つのを忘れてしまうほど語り合いました。

こうして正使一行が無事にアメリカに到着したことで、木村摂津守が乗り込んだ咸臨丸の任務は完了したわけですが、木村摂津守が軍艦奉行に任命されたときに正使一行のアメリカに随伴するとともに、正使一行が万一事故に遭い批准書交換が出来なくなった場合には、その代理をする任務が与えられていました。そこで、木村摂津守は自らも正使一行とともにワシントンに赴き、日米との初めての外交交渉の場を目にしたいと思いました。しかし、往路の航海での勝麟太郎の行動が艦長としての適正を欠き、サンフランシスコに入港した時には、乗組員からの信望がすでに失われていました。その上、勝自らが「木村軍艦奉行が乗船していなければ咸臨丸の秩序が保てず、無事帰国出来るかどうか分かりません」と木村摂津守のワシントン行きに反対するなど、結局木村摂津守の願いは叶いませんでした。「去りながら都府を訪せざるは極めて遺憾の事なり」と「奉使米利堅紀行（ほうしあめりけんぎこう）」に当時の木村の思いが記されています。



浦賀城跡から見た浦賀港

帰国の船旅は、往路のブルック大尉からの航海に当たっての基礎知識から操船技術まで、習得した士官たちの手により日本を目指しました。同乗していたアメリカ軍人の手を全く借りる事はありませんでした。勝麟太郎の出番は全くなく艦長の責務は棚上げされ、士官たちの操船技術をただ見守るばかりでした。

咸臨丸は日本人だけの手により運行され、無事に浦賀港に入港することが出来ました。咸臨丸が浦賀港に帰国した日、5月5日を記念して、横須賀市では四大国際記念日の一つとして「咸臨丸まつり」が開催されています。

（元横須賀市助役 井上吉隆）

よこすか産業まつり2020 SANTA'S HOUSE KIT BOX

先月号でご紹介した「SANTA'S HOUSE KIT BOX」でサンタのお家を作りましたというメールが完成写真とともに届いています。無理を言ってモニターとしてお願いした方もいらっしゃいましたが、ご協力ありがとうございました。今年はこの誌面上において弊社の「リモートよこすか産業まつり2020」とさせていただきます。ご参加いただきましてありがとうございました。



「サンタさん、家にはまだプレゼントが届いてないよ」と弊社までお問い合わせください。残りあとわずか。

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2020」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索